

くすりと健康のはなし

## 薬包紙

第122回



一般社団法人岐阜県薬剤師会  
監事 栗本秀文

病院や薬局からもらった薬を自宅で保管する上で注意していただきたいのが、「温度」、「湿度」、「光」の3つの要素です。すべて冷蔵庫で保管する必要はありません。

## 温度

錠剤、散剤、カプセル剤などの飲み薬は、室温（1～30℃）での保存が可能です。一方、坐薬や一部の点眼薬など、冷所（1～15℃）保存の指示がある場合は、冷蔵庫で保管します。薬は凍ってしまうと効果が弱まってしまうものもあるので、冷凍には入れないよう注意してください。

## 湿度

薬は湿度が高いと吸湿により変質して効果が弱まってしまうます。高温、多湿になる梅雨時などは特に注意が必要です。薬は、乾燥剤とともにチャック付きのポリ袋に入れた上で、フタの閉まる缶や箱に保管し、できるだけ涼しい場所に置くようにしてください。

## 自宅で薬を保管する時の注意

## 光

薬は直射日光のような強い光に当たると分解しやすくなります。特に「遮光保存」の注意書きのある薬は、弱い室内光でも分解しやすいため、光のあたらない暗所に保管する必要があります。点眼薬で遮光袋が付いているものは、遮光袋に入れてから保管するようにしてください。

インシュリン注射薬は、未使用のものは冷所保存ですが、使用開始後は、結露を防ぐために室温で保存します。また、一包化された薬は、PTPシートで包装された薬よりも湿度や光の影響を受けやすいので、保存には注意が必要です。

薬は、誤飲を防ぐため、小児や乳幼児の目に触れない所、手が届かない所に保管して下さい。そして、薬を服用後にそのまま放置しないよう気を付けて下さい。長期に保管している薬は、自己判断で服用せずに、服用可能かどうか医師や薬剤師に相談することをおすすめします。